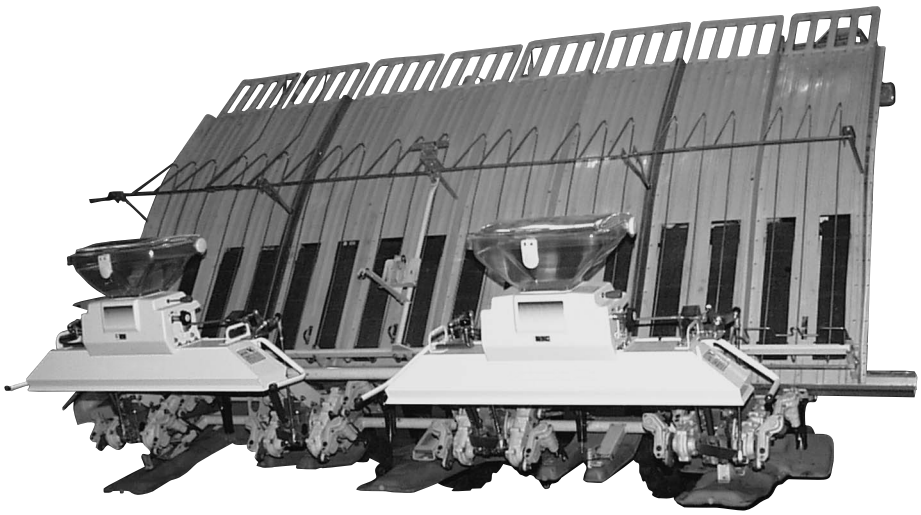
薬剤散布機

取扱説明書

MPSR−V8(S)



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびは薬剤散布機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書と合わせて乗用田植機の取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し，いつでも読めるようにしてください。
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・⚠印付きの下記マークは，安全上，特に重要な項目ですので，必ずお守りください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は田植機に装着して薬剤散布作業に使用してください。
・上記作業以外には使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は保証の対象になりません。
（詳細は田植機の保証書をご覧ください。）

もくじ

安全に作業をするために 2

保証とサービスについて 3

用語について 3

表示ラベルについて 4

1 薬剤散布に適した薬剤とほ場について 5
- 1．作業に適した除草剤の選定
- 2．散布量の目安
- 3．ほ場について
- 4．苗について
- 5．植付について

2 各部のなまえ 8

各部のはたらき 9
- 1．作業関係

3 作業前の準備 11
- 1．運搬時の注意事項
- 2．薬剤の入れかた

作業のしかた 13
- 1．散布量の調節のしかた
- 2．散布作業のしかた

作業後の手入れについて 17
- 1．散布作業終了時の注意事項

4 点検・整備をするには 19
- 1．薬剤散布機本体の取外し・取付けかた
- 2．繰出し部の分解・組立要領
- 3．駆動ワイヤの調節のしかた
- 4．組立後の確認要領

5 不調診断 22

付表 24
- 1．主要諸元
- 2．消耗部品

安全に作業をするために

ここに記載されている注意項目を守らないと、
死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。
田植機の取扱要領や注意事項は、田植機の取扱説明書をご覧ください。
※ご購入された製品によっては、該当しない内容も一部記載していますのでご了承ください。

⚠警告 薬剤の取扱説明書を熟読

使用する薬剤の取扱説明書をよく読み用法・用量や注意事項を厳守し、薬剤の取扱いは十分注意して行ってください。

【守らないと】

薬物中毒や死亡するおそれがあり、また重大な汚染事故をまねくことがあります。



⚠注意 薬剤の取扱い時や作業時は防塵マスク、保護メガネ、ゴム手袋などを着用し、薬剤が身体にかからないようにしてください。

【守らないと】

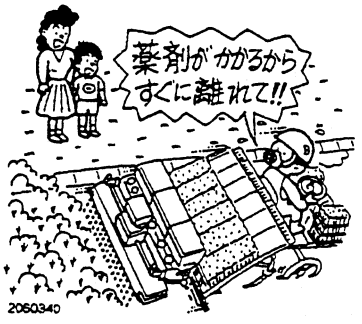
薬剤が身体にかかり健康を害するおそれがあります。



⚠注意 作業中は絶対に人を近づけない

【守らないと】

薬剤が人にかかり健康を害するおそれがあります。



⚠注意 点検・整備・掃除中は必ずキースイッチ「切」

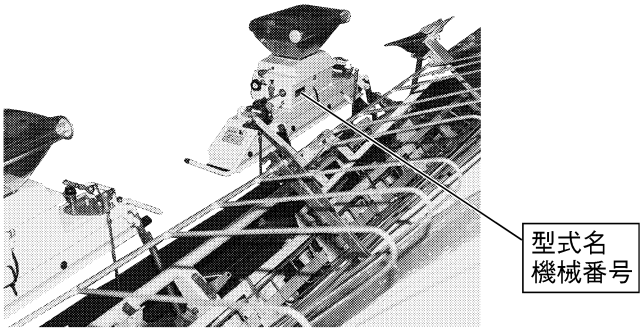
点検・整備・掃除中は必ず田植機のキースイッチを「切」、油圧固定レバーを「固定」にしてから行ってください。

【守らないと】

衣服が巻き込まれたり、回転するスピンナにふれてケガをするおそれがあります。

保証とサービスについて

・この機械の保証は田植機の保証書で保証いたします。ご使用まえによくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは**「お買いあげ先」**にご相談ください。その際**「型式名」**・**「機械番号（製造番号）」**をお知らせください。



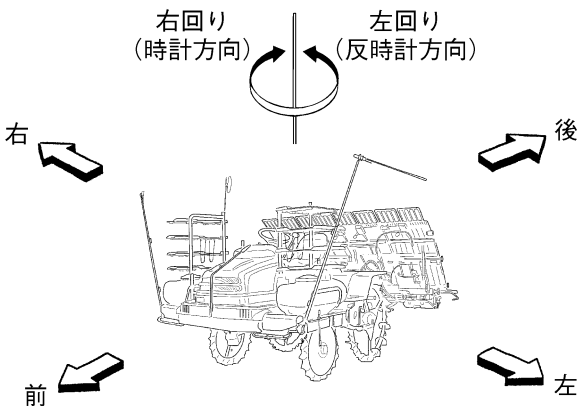
・補修用部品の供給年限について

・この製品の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

●用語について

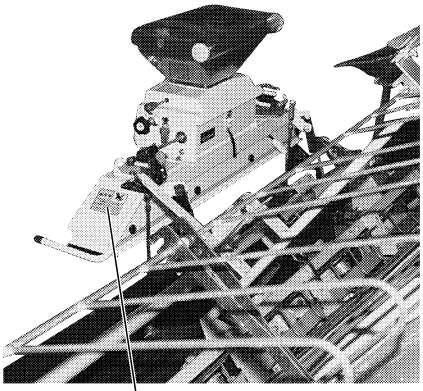
⑴　この取扱説明書に使用している**「前後・左右・右回り・左回り」**などの用語は図示のとおりです。

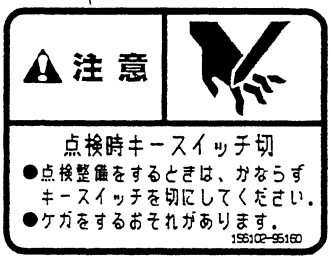


表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを**「お買いあげ先」**に注文して購入し貼り替えてください。

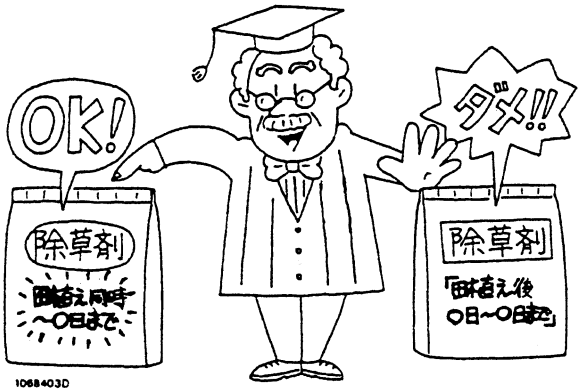




薬剤散布機に適した薬剤とほ場について

1.作業に適した除草剤の選定

田植えと同時に使える除草剤を使用してください。地域によって、気象条件やほ場条件が異なりますので、各県の指導指針に従って正しく使用してください。



⚠警告

- 薬剤のラベルに記載されている使用方法・用量や注意事項を厳守し、取扱いには十分注意してください。また、薬剤の取扱い時や作業時は、防塵マスク、保護メガネ、ゴム手袋などを着用し、薬剤が身体にかからないようにしてください。取扱いをあやまると、薬物中毒や死亡事故を引き起こすおそれがあり、また重大な汚染事故をまねくことがあります。

2.散布量の目安

散布量は、従来の手散布および機械散布と同じです。あらかじめ指導機関のご意見を参考にし、特に多くならないようにして、薬害の発生がないように注意してください。

【取扱いの注意】

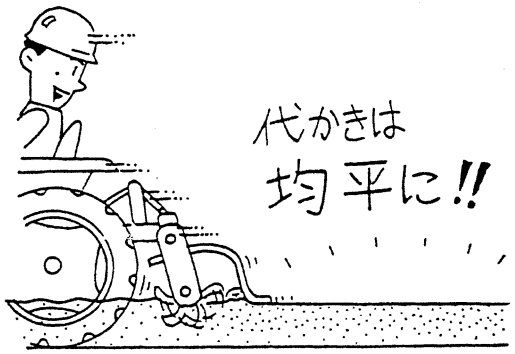
- 薬剤の銘柄、メーカによって性状が異なりますので、作業前に必ず試し繰出しをして散布量を確認してください。
（14ページ参照）

3.ほ場について

田植機の取扱説明書に記載した条件に加えて、特に以下の項目に注意してください。

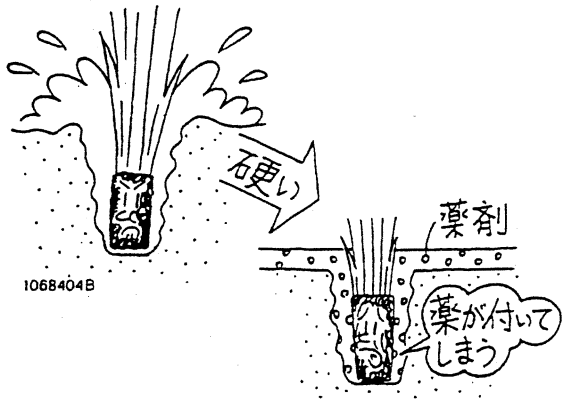
耕うん・代かき

耕うん・代かきの方法は、植付時、浅水にしたときに田面が露出しないように、代かきは表面の凹凸がないように均平に整地してください。
またほ場の作土の深さや土性によって、機械が走行する際のスリップ率が変わり、それに伴なって、散布量が多少変化することがあります。土性を考慮のうえ耕うん・代かき作業を行ってください。



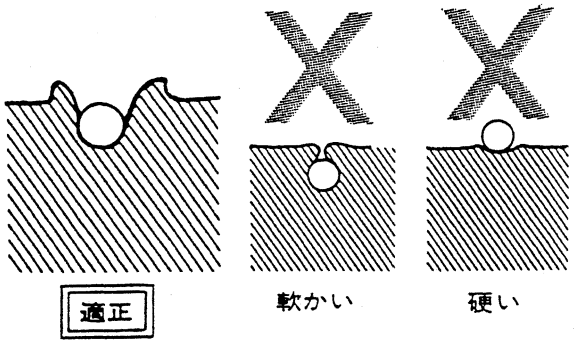
1068404A

〈泥の硬さ〉
従来の機械田植えの場合と同じですが、硬すぎると植付穴ができて、その中に除草剤が入り込み薬害が発生することがあります。逆に、代かきを過度に行なうと表面が軟らかくなりすぎ、泥水により薬剤が移動し、均一な散布ができない場合がありますので、土の性質を考慮のうえ代かき日や植付日を決めてください。



1068404B

〈硬さの目安〉
土塊（ゴルフボール大）を表面より高さ1mから落としたとき、下図の「適正」な状態になるのが植付作業に最適な硬さです。



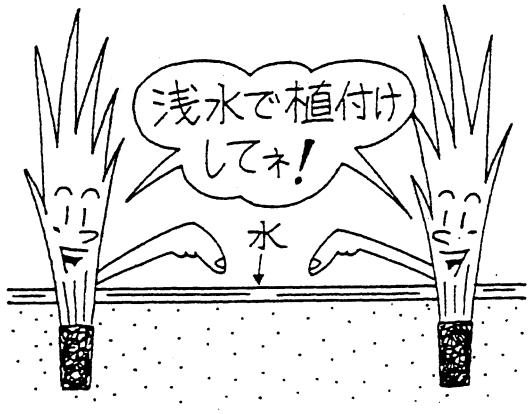
1052902C

土性名	代かき日
砂土	当日または前日
砂壌土	2～3日前
壌土・埴壌土(標準水田)	4～5日前
埴土(粘土)	5～6日前
火山灰土	6～7日前

注）代かき日の目安は、天候や地域によって若干異なります。

〈水深〉

田面が露出しないように浅水で水深を一定にし、田植え後の水入れは、散布した薬剤が移動しないようにゆっくりと行なってください。なお、散布後数日は、湛水状態に保ち、田面を露出させたり、水をきらさないようにし、かけ流しはさけてください。



1068404C

【取扱いの注意】

- 植付、薬剤散布終了後に、ほ場の表面が露出するような浅水状態では、除草効果の低下が起こる場合がありますので、水管理に注意してください。

4.苗について

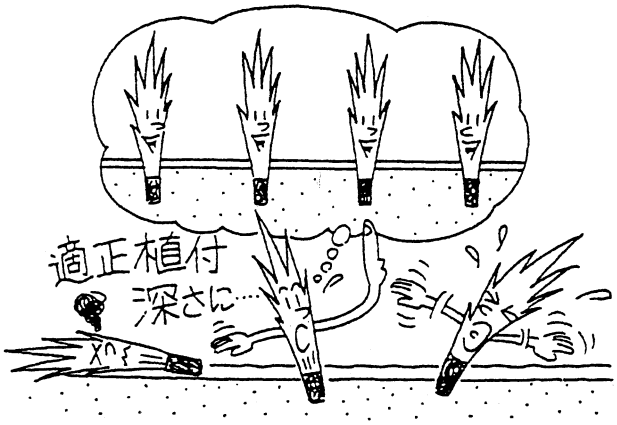
健苗を使用してください。

軟弱徒長苗や、老化苗は、田植え後の天候が不順で生育が不良な場合は、薬害が発生することがあります。

5.植付について

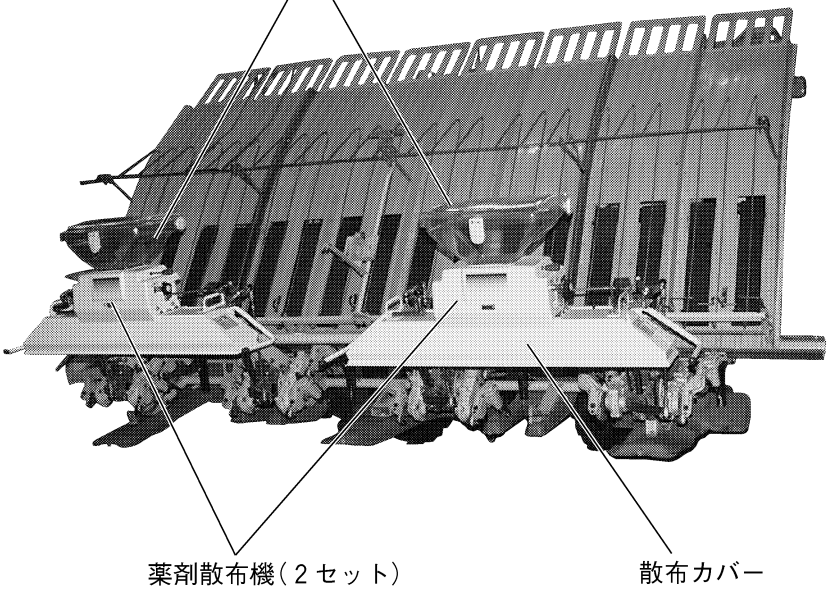
浮苗・浅植えがないように適正植付け深さにしてください。

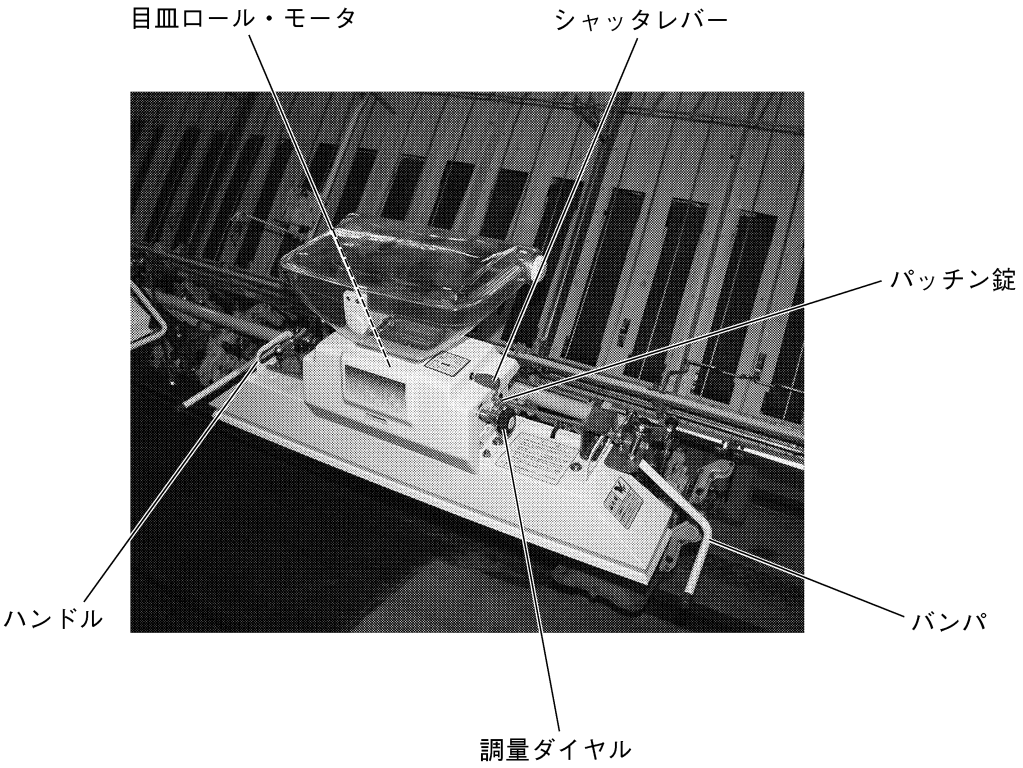
※調節要領は、田植機の取扱説明書をごらんください。



1068404D

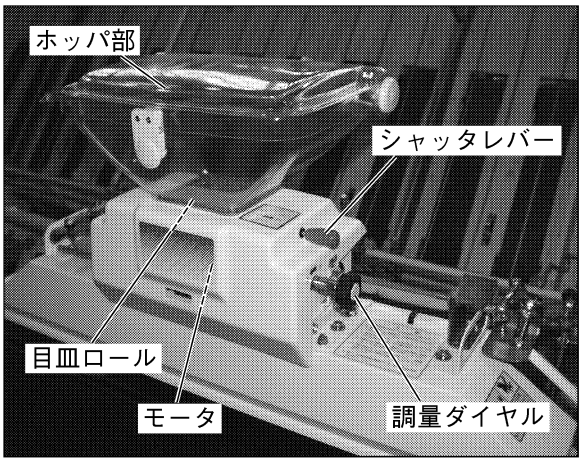
各部のなまえ


ホッパ
薬剤散布機（２セット）
散布カバー


目皿ロール・モータ
シャッタレバー
パッチン錠
ハンドル
バンパ
調量ダイヤル

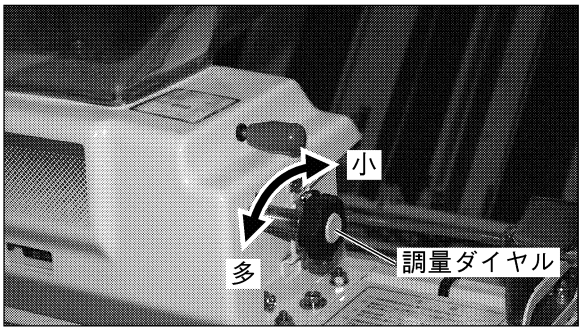
各部のはたらき

1.作業関係



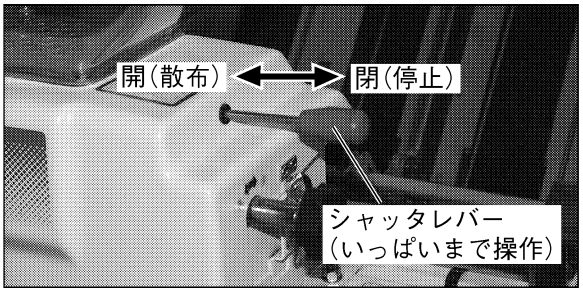
1．調量ダイヤル

散布量を調節するダイヤルです。
散布量の調節は右側のダイヤルで行ないます。ダイヤルを「**多**」側へ回すと散布量が多くなり、「**少**」側へ回すと少なくなります。



2．シャッタレバー

ホッパから目皿ロールへの薬剤の落下口のシャッタを開閉するレバーです。
レバーを引くとシャッタ「**閉**」(停止)、押すとシャッタ「**開**」(散布)になります。

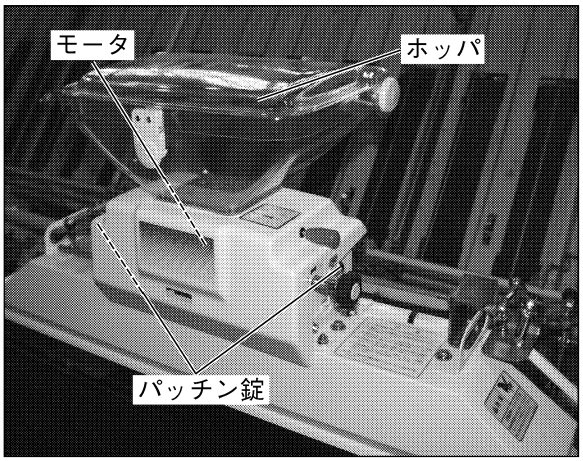


3．ホッパ部

最大で約４Ｌの薬剤を一度に入れることができます。
ホッパは左右のパッチン錠を外して、簡単に取外すことができ、繰出し部の点検も容易に行なえます。
また、ホッパ内に残った薬剤の排出も簡単に行なえます。

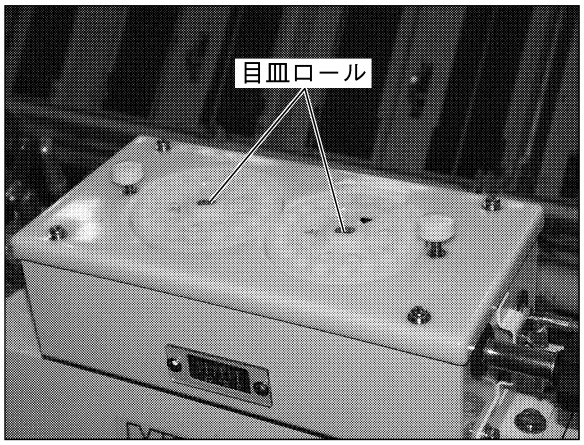
4．モータ

薬剤を拡散、散布するスピンナを高速回転させるための動力源で、田植機のキースイッチ「**入**」、リフト（油圧・植付）レバーを《**植付**》位置に動かすことで回転して散布作業状態になります。



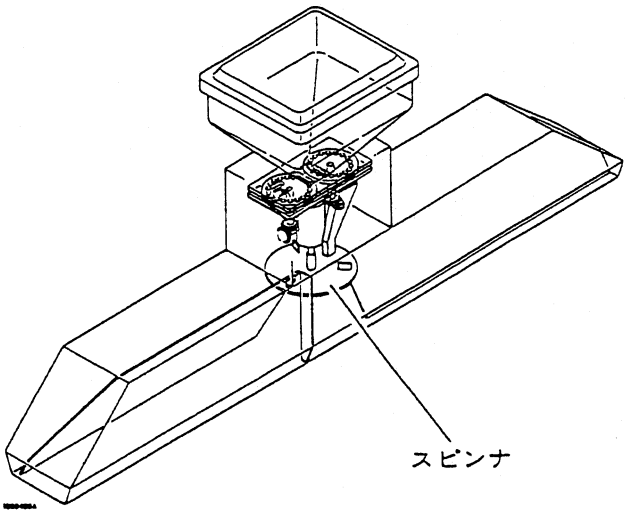
5．目皿ロール

ホッパ内の薬剤を繰出します。
ひとつのホッパに対して、２個の目皿ロールを備えています。動力は、左右別々に田植機のプランタケース後部から、駆動ロッドにより取出しており、ロータリプランタアームの動きに連動して動きます。



6．スピンナ

目皿ロールで繰出された薬剤を拡散・散布します。
田植機のスタータスイッチ「**入**」でリフトレバー《**植付**》のときスピンナが高速回転して散布作業状態になります。



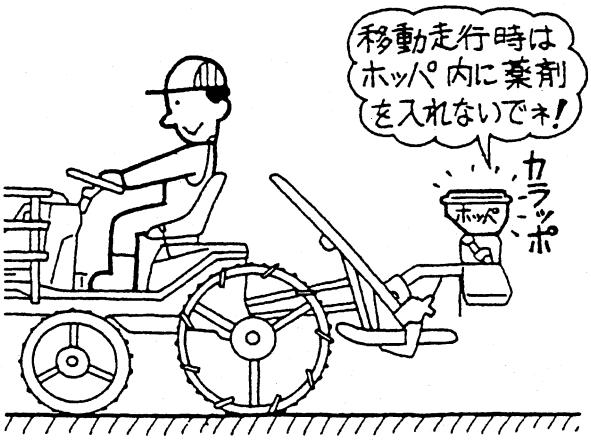
作業前の準備

- 田植機やペースト施肥機の取扱い要領は、田植機およびペースト施肥機の取扱説明書をご覧ください。
- 散布作業は、田植作業と同時に行いますので、田植機の作業要領に従い作業を行ってください。

1.運搬時の注意事項

【取扱いの注意】

- 田植機の取扱説明書の「上手な作業のしかた」を参照してください。
- **移動走行時は、ホッパ内に薬剤を入れないでください。薬剤の目詰まりの原因となります。**



- **トラックなどに載せて移動するときは、薬剤散布機の取付フレームなどには絶対にロープ掛けしないでください。**
- **フロートの下に敷物をして、植付部を降ろして運搬してください。**

（ペースト施肥機付の場合は、ペーストノズルが直接荷台に、接触しないようにしてください。）

2.薬剤の入れかた

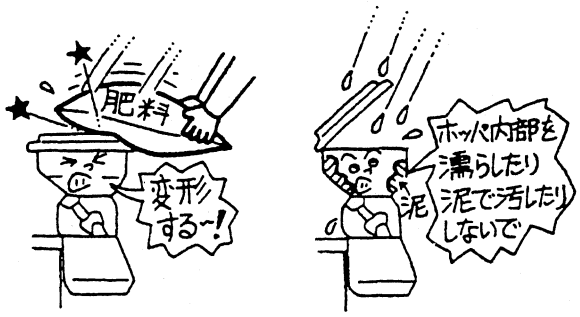
⚠警告

- 薬剤の取扱説明書をよく読み、用法・用量や注意事項を厳守し、薬剤の取扱いには十分注意してください。また防塵マスク、保護メガネ、ゴム手袋などを着用し薬剤が身体にかからないようにしてください。取扱いをあやまると薬物中毒や死亡事故につながります。

薬剤を入れるときは以下の項目に注意して行ってください。

【取扱いの注意】

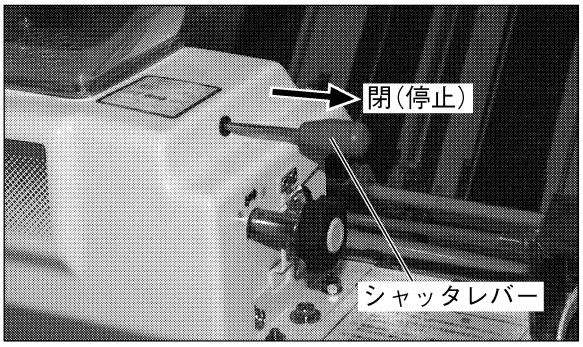
- ホッパは樹脂製ですので、大きな荷重を加えないでください。



- ホッパ内部が濡れたり、泥で汚れたりしないようにしてください。(雨天作業時は、すみやかに補給して、ホッパ内や薬剤が濡れないように注意してください。ホッパ内や薬剤が濡れると詰まりの原因となります。)
- 散布カバー内およびスピンナは、濡れないように注意してください。
- 湿ったり、濡れた薬剤は使用しないでください。
- 作業の前日や、連日作業をするときに、田植機をやむを得ず夜間、戸外に放置した場合には、ホッパ内部が結露（特に早朝の作業時）することがあります。結露したときは、ホッパ内部、および目皿ロールなどの水分を、やわらかい布でよくふき取ってから薬剤を補給してください。
- あらかじめホッパ内に薬剤のかたまりがないかどうか確認してから作業してください。(薬剤は開封直後のものを使用してください。)
- コシ網の上に残っている、かたまった薬剤は使用しないでください。

薬剤を次の手順でホッパに入れてください。

①シャッタレバーを引いてシャッタを「閉」（停止）にします。



②ホッパのふたを開いて薬剤を入れます。

③ホッパふたを閉めます。

【取扱いの注意】

- ホッパふたは最後まで確実に閉めてください。確実に閉まっていないとふたが開いて薬剤がこぼれるおそれがあります。

作業のしかた

1.散布量の調節のしかた

⚠警告

- **薬剤の取扱説明書をよく読み、注意事項を厳守して、取扱いには十分注意してください。また、防塵マスク、保護メガネ、ゴム手袋などを着用し、薬剤が身体にかからないようにしてください。取扱いを誤ると薬物中毒や死亡事故につながります。**

⚠注意

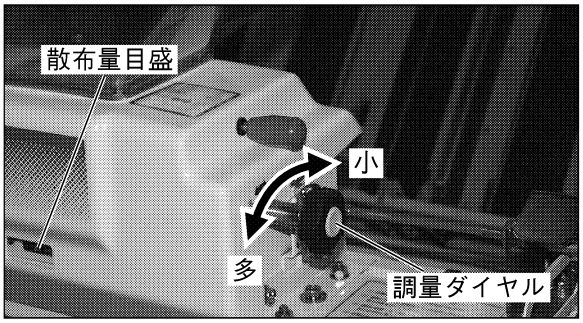
- 調節を行うときは必ず散布機のハーネスのカプラを外して行ってください。また必要な時以外はエンジンを停止してください。キースイッチ「入」位置、モニタスイッチ「入」位置のときスピンナが高速で回転しますのでケガをする場合があります。

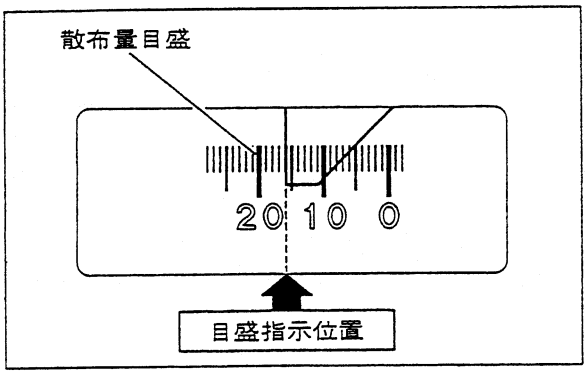
散布量の調節と目安表
(10a当り3kg（1kg）の散布量を目安に調節する場合)

右段の調量ダイヤル設定目安位置を参考にし、植付ける株数に合わせて、調量ダイヤルの目盛を設定してください。

【取扱いの注意】

- **薬剤の銘柄やメーカによって性状が異なり散布量が変化しますので、作業前に必ず試し繰出しをして散布量を確認してください。**
  (15ページ参照)
- **ほ場の作土の深さや土性によって機械が走行する際のスリップ率が変わり、それに伴って散布量が異なりますので各ほ場に合わせて調節を行ってください。**





調量ダイヤル設定目安位置

株数＼目盛	10aあたり 3kg散布	10aあたり 1kg散布
40	15	5
50	9	3
60	7	2
70	6	1～2
80	5	1
90	4	～1

※この表はあくまでも目安ですので、必ず試し繰出しをしてください。

散布量の確認のしかた

機械をほ場に入れる前に、次の要領で必ず試し繰出しをして、散布量を確認してください。

※苗のせ台に苗を載せないで行ってください。

※条止めレバーは「入」位置にして確認してください。

❶植付部を30cm程度上げて、油圧固定レバーを「固定」位置にします。

❷スピンナ下部に受皿を置きます。（直径20cm以上の受皿を準備してください。）

❸散布機のハーネスのカプラを外します。

❹植付部を駆動して苗の空取りを行います。

<10a当り 3 kg散布される場合>
苗を**100**回空取り（ロータリケース50回転）させます。

<10a当り 1 kg散布される場合>
苗を**300**回空取り（ロータリケース 150 回転）させます。

【取扱いの注意】

- エンジン停止後に、スピンナに乗っている薬剤は、指でかき落してから合わせて計量してください。
- 計量が終ったら忘れずにハーネスのカプラを接続します。

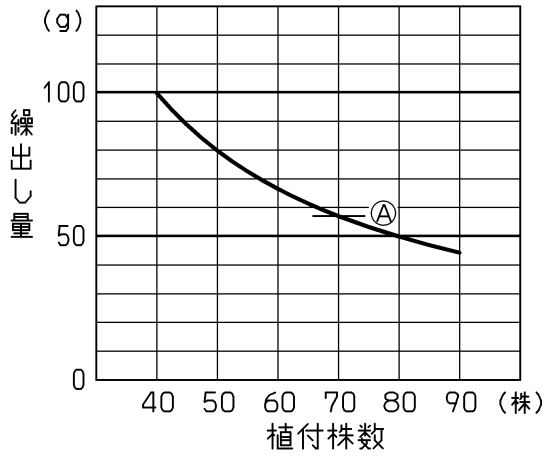
横送り	苗のせ台の移動	
	苗取り回数100回の目安（ロータリケース50回転）	苗取り回数300回の目安（ロータリケース150回転）
30回	3行程と4行程目の10回分の繰出し量 （30回×3行程＝90回 4行程目の10回を加えて100回）	10行程 （10行程で300回）
26回	1行程目の4回を除いた4行程分の繰出し量 （26回×4行程＝104回 1行程目の4回を除くと100回）	1行程目の12回を除いた12行程分の繰出し量 （26回×12行程＝312回 1行程目の12回を除くと300回）
20回	5行程 （5行程で100回）	15行程 （15行程で300回）
18回	1行程目の8回を除いた6行程分の繰出し量 （18回×6行程＝108回 1行程目の8回を除くと100回）	1行程目の6回を除いた17行程分の繰出し量 （18回×17行程＝306回 1行程目の6回を除くと300回）

※1行程とは、苗のせ台が左（右）端から右（左）端までの1回の移動をいいます。横送り26回は、1行程でプランタアームが26回（ロータリケース13回転）の苗取りをします。

散布量目安グラフの見方

例えば70株／3.3㎡田植えをする場合に、10a当り3 kg（1 kg）散布するには、**MPSR－V8**では、Ⓐ点で苗の空取り**100回（300回）**の繰出し量は約57ｇになります。実際に繰出される量と異なるときは、調量ダイヤルで調節してください。

散布量目安グラフ



※このグラフは薬剤を10ａ当りに3㎏は100回、1㎏は300回の繰出し量を示しています。散布時の目安にしてください。

2.散布作業のしかた

散布作業は田植作業と同時に行ないますので田植機の取扱説明書も合わせてご覧ください。

⚠警告

- **薬剤の取扱説明書をよく読み、用法・用量や注意事項を厳守し、薬剤の取扱いには十分注意してください。また、防塵マスク、保護メガネ、ゴム手袋などを着用し、薬剤が身体にかからないようにしてください。取扱いを誤ると薬物中毒や死亡事故につながります。**

⚠注意

- **散布作業中は機械に人や動物を近づけないでください。散布した薬剤が人にかかり健康を害するおそれがあります。**

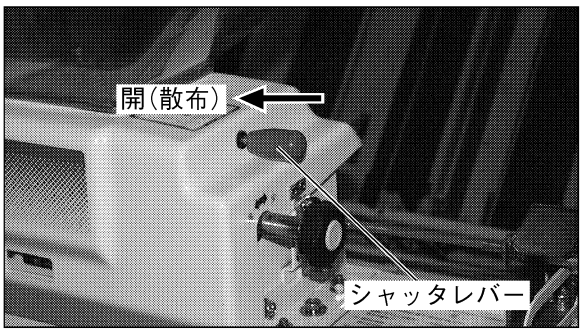
【取扱いの注意】

- **薬剤散布機本体に防泥カバーが取付けられていることを確認してください。**
- **バッテリが放電している場合は、充分に充電を行ってから作業を開始してください。他のバッテリなどに接続してエンジンをスタートさせて作業を行う場合など、バッテリーの電圧が低くスピンナの回転が不安定になり、散布ムラを生じる場合がありますので注意してください。**

散布作業は、次の手順で行います。

❶ホッパに薬剤を入れます。

❷シャッターレバーを「開」（散布）位置にします。



❸エンジンを始動します。

❹田植作業を開始します。植付を行うと同時に散布も行われます。

【取扱いの注意】

散布ムラや詰まりを防止するために、以下の項目を守ってください。

- **発進するときは、エンジン回転を低速回転にしてください。**
- **植付はできるだけ真っすぐに行ってください。蛇行して植付けると散布ムラの原因になります。**
- **苗つぎおよび肥料・薬剤の補給は枕地で行い、植付けの途中で機械を止めて行わないでください。停止部分が散布ムラになる場合があります。**
- **各工程の植え終わり部での急停止は避けて、徐々に速度を落として止まるように心がけてください。急停止した部分が散布ムラになることがあります。**
- **旋回する場合は、必ず植付部を上げて速度を落としゆっくり旋回してください。**
- **作業中に、ときどき散布カバー内やスピンナを点検・掃除して、常にきれいな状態で作業ができるようにしてください。**
- **旋回時などに、ときどきホッパ内の薬剤の減少具合を確認してください。**
- **休憩時などに機械を停止する場合は、植付部を上げておいてください。下ろしておくと、散布カバー内が吸湿し、再作業時に最良な散布ができなくなります。**
- **作業中、特に旋回時に前輪が浮上る場合は、田植機用ウエイト（別売）をフレーム（付属品）に装着して作業してください。**

薬剤の補給

苗つぎ時、肥料補給時にホッパ内の薬剤の残量を確認して、早めに薬剤の補給を行ってください。

【取扱いの注意】

- **苗つぎおよび肥料、薬剤の補給は、枕地で行なってください。植付作業の途中で機械を止めて行なうと、停止部分が散布ムラになる恐れがあります。**

条止めのしかた

田植機の条止めレバーを切ると、連動して散布幅が変わります。

1 2	3 4	5 6	7 8

※実線の条止めレバーと連動しています。全て停止するときには、シャッタレバーを引き「**停止**」位置にします。

作業後の手入れについて

1.散布作業終了時の注意事項

⚠警告

●薬剤を排出するなど、薬剤を取扱う時は薬剤の取扱説明書をよく読み、注意事項を厳守し、取扱いには十分注意してください。また、防塵マスク、保護メガネ、ゴム手袋などを着用し、薬剤が身体にかからないようにしてください。薬剤が身体にかかると健康を害するおそれがあります。

⚠注意

●薬剤散布機を点検・整備・掃除する時は必ずキースイッチ「切」位置で油圧固定レバーを「固定」位置にしてから行ってください。キースイッチ「入」位置では、スピンナが回転しますので傷害事故の原因となります。

1日の作業が終ったら

❶ホッパ内や目皿ロール内に残っている薬剤は、完全に取り除いてください。

【取扱いの注意】

●薬剤を入れたままにしておくと、吸湿して固着する場合がありますので必ず薬剤を取り除いてください。

❷散布カバー・スピンナを点検・掃除して、常にきれいな状態で作業ができるようにしてください。

【取扱いの注意】

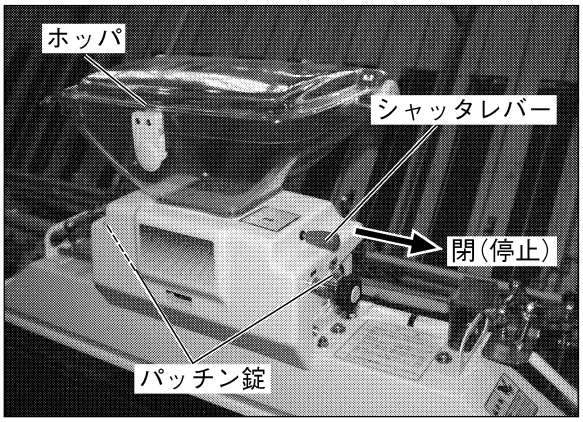
●ホッパ内の結露を防ぐために、田植機をほ場内に放置することは避けてください。

薬剤の排出のしかた

❶シャッタレバーを引きます。(「停止」位置)。

❷パッチン錠を外し、ホッパ部を取外します。

❸ホッパ下部に受皿を置き、シャッタレバーを押します。(「散布」位置)。



※ホッパ部を取付けるときは、シャッタレバーが右側になるように取付けてください。

長期間使用しないとき

❶ホッパの薬剤を完全に抜取り、ホッパを外して、ホッパ内および目皿ロールなどの繰出し部部品を、手洗いで掃除してください。

【取扱いの注意】

- ホッパ内に薬剤を入れたままの保管は絶対にしないでください。ホッパを傷める原因になります。
- お手入れのときは、シンナー、ベンジン、アルコール、石油類、みがき粉類、熱湯などを 使用しないでください。
  塗装面やプラスチックをいためます。
- 薬剤散布機の洗浄には、高圧洗浄機を使用しないでください。
- 落ちにくいよごれは、やわらかい布に中性洗剤を含ませてふきとってください。
- 機体を水で洗い流すときは、繰出し部内部、散布カバー内に直接水が入らないように注意して行なってください。
  モータに水が入ると故障の原因になります。

❷水洗い後は十分に乾燥させ、リンク部にはグリスを塗布した後に保管してください。

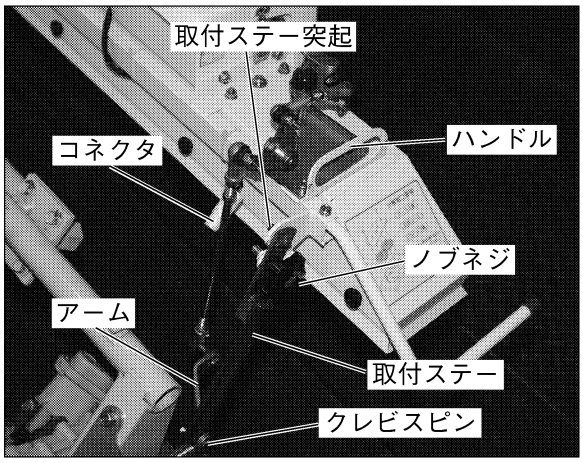
1.薬剤散布機本体の取外し・取付けかた

取外しかた

❶駆動ロッドをナットをゆるめ，アームより外します。
❷薬剤散布機本体にクランプされているハーネスのコネクタを外します。
❸左右の取付ステーのノブネジを外します。
❹薬剤散布機本体のハンドルを持ち上げると取外せます。
❺植付部を折りたたむときは，クレビスピンを外してステー（４本）を取外します。

取付けかた

❶左右の取付ステー先端の突起に，薬剤散布機本体の切欠き部を掛けて取付けます。
❷左右の取付ステーのノブネジを取付け，ハーネスのコネクタを持続します。
❸駆動ロッドをアームに取付けます。



2.繰出し部の分解・組立要領

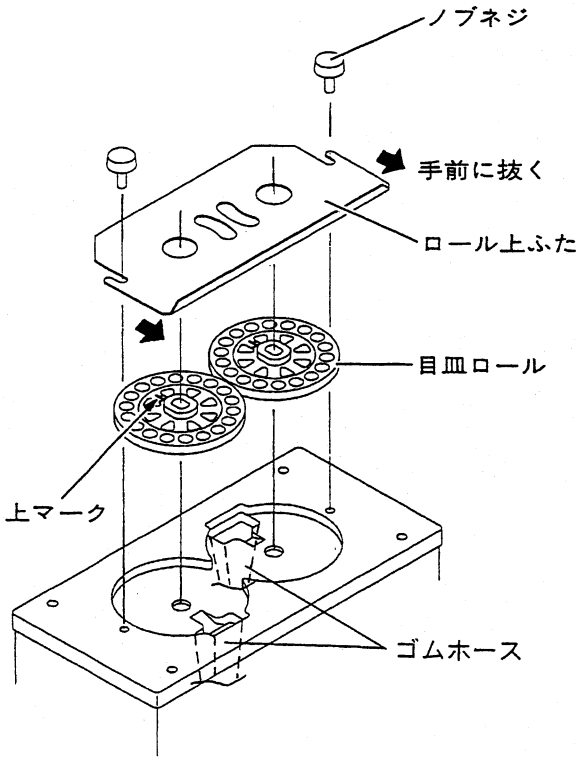
分解

❶パッチン錠を外して、ホッパ部を取外します。

❷ロール上ふたを固定しているノブネジをゆるめます。

❸ロール上ふたを手前に抜きます。

❹目皿ロールを取外します。



※薬剤繰出し部の分解、組立は図の順番で行なってください。

〔注　意〕
目皿ロールは、「上」マーク側を上にしてください。

⚠注意

- **ほ場での分解は、部品の紛失の恐れがありますのでさけてください。**
- **ホッパ内の薬剤は、あらかじめ排出しておいてください。**

組立

❶目皿ロールを「上」マーク側が上になるように駆動軸に入れます。

⚠注意

- **上下をさかさまに取り付けると、破損の原因になります。**

❷ロール上ふたの切欠き部にノブネジが掛かるようにロール上ふたを取り付けます。

❸ロール上ふたの位置が決まってからノブネジを締付けます。自然ゆるみがないように、しっかりと締付けてください。

❹ホッパ部をパッチン錠で固定します。

❺ゴムホースの外れ・ズレがないことを確認します。

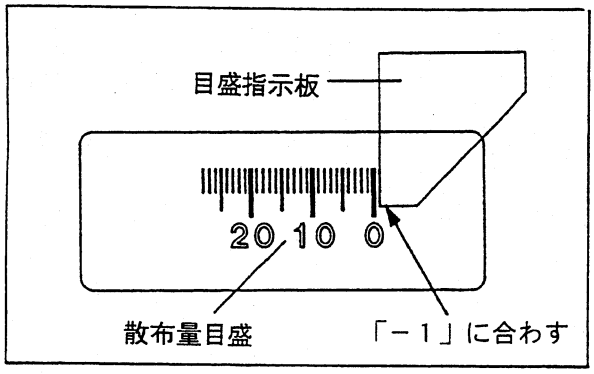
3.駆動ロッドの調節のしかた

⚠警告

- 調節するときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。回動部分にはさまれたりしてケガをするおそれがあります。

※万一、駆動ロッドを交換する必要が生じた場合には、交換後に以下の要領で調節してください。

❶調量ダイヤルで、散布量目盛を「－１」に合わせます。



❷油圧固定レバーを「固定」位置、油圧植付レバーを「植付」位置にします。

❸株間調節レバー・切替レバーを「中立」位置にします。

❹ロータリケースを手動で回転させてロールケースボックス内のＬ金具と駆動アームのすき間が「０」になり、駆動アームが動き始める直前の位置になるように駆動ロッドを調節します。

4.組立終了後の確認

モータの駆動確認(スピンナの回転)

エンジンは停止させて行なってください。

❶キースイッチ「入」、油圧・植付レバーを「植付」位置にします。

❷このとき、薬剤散布機の散布カバー内のスピンナが回転することを確認してください。

※回転しない場合は、薬剤散布機のハーネスのカプラなどが確実に接続されているか確認してください。

⚠警告

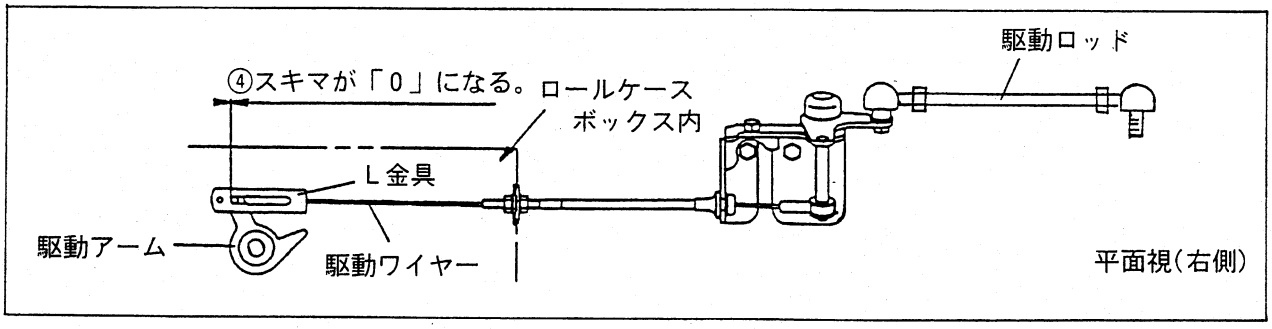
- スピンナは高速で回転しますので、傷害事故防止のため回転中は手で触れないでください。

駆動しての確認のしかた

❶エンジンをかけて、植付部を数回上下させて、ワイヤハーネスや駆動ロッドに無理がないか確認します。

❷植付部を駆動させて、ワイヤハーネスがプランタアームなどに接触しないことを確認します。

❸植付部を駆動させて、目皿ロールがスムーズに回ることをホッパ上部より確認します。このとき、シャッタは開けておいてください。



不調診断

⚠警告

●もし機械の調子が悪いときは、表を参考にし、必ずエンジンを止めてから、油圧固定レバーを「固定」位置にしてから診断してください。エンジンを回転させたまま行うと不意に機械が動いたりして傷害事故につながります。

状　　況	原因（点検個所）	処　　置
薬剤が均一に散布されない。	駆動ワイヤが外れていませんか。	駆動ワイヤを取付けてください。
	条止めレバーが「切」位置になっていませんか。	条止めレバーを「入」位置にしてください。
	防泥カバーの取付けを忘れて、散布カバー内に泥がかかったのではないですか。	①散布カバー内の泥をきれいに落として、乾燥させてください。 ②防泥カバーを取付けてください。
	散布カバー内が濡れて、薬剤が付着しているのではないですか。	付着した薬剤を取除き、散布カバー内を乾燥させてください。
散布量が設定より極端に異なった。	散布量の調節が不十分だったのではありませんか。	散布量の調節をやり直してください。(13ページ参照)
	本機のスリップが多かったのではありませんか。	水深を１～２cmに保ってください。
		アタッチメントの補助車輪を使用すると、スリップが少なくなります。
	供給した薬剤が湿っていませんか。	湿った薬剤を排出し、新しい乾燥した薬剤と取替えてください。
	薬剤が固まっていませんか。	薬剤を排出し、塊を取除いてから再度供給してください。
	条止めレバーが「切」位置になっていませんか。	条止めレバーを「入」位置にしてください。

状　　況	原因（点検個所）	処　　置
散布量が設定より極端に異なった。	植付株数と散布量が合っていますか。	散布量確認時の植付株数に戻すか、株数に合わせて散布量の調節をやり直してください。 （13ページ参照）
	隣接条間が狭くありませんか。	隣接条間は30cmが標準ですので、30cmに保つように植付けてください。
	目皿ロールに薬剤詰まりが発生していませんか。	薬剤の詰まりを取除いてください。
クラッチを入れても薬剤が散布されない。	シャッタレバーが「停止」位置になっていませんか。	シャッタレバーを「散布」位置にしてください。
	駆動ワイヤが外れていませんか。	駆動ワイヤを取付けてください。
	ホッパ内が濡れていませんか。	ホッパ内を乾いた布できれいに拭きとり、さらに、点検整備要領に従い薬剤繰出し部を掃除してください。また。濡れた薬剤は完全に取除いてください。
	固まった薬剤がホッパへ供給されていませんか。	薬剤を排出し、塊を取除いてから再度供給してください。
	条止めレバーが「切」位置になっていませんか。	条止めレバーを「入」位置にしてください。
	目皿ロールに薬剤詰まりが発生していませんか。	薬剤の詰まりを取除いてください。

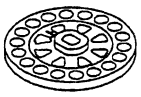
付表

1．主要諸元

型　　式	MPSR－V8
条　　数	8条
適応乗用田植機型式	8条型
本体重量（kg）	26（13×２）
散布幅（mm）	2400～2500
散布位置	表面散布
ホッパ容量（L）	8（４×２）
繰出方式	目皿ロール
散布方式	スピンナによる遠心散布
調量方式	調量ダイヤル
適合薬剤	粒剤（か粒）

※この仕様は改良などにより，予告なく変更することがあります。

2．消耗部品

型　　式	部品番号	外観形状
目皿ロール	9152　0000　140	

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　式　名

機械番号（製造番号）

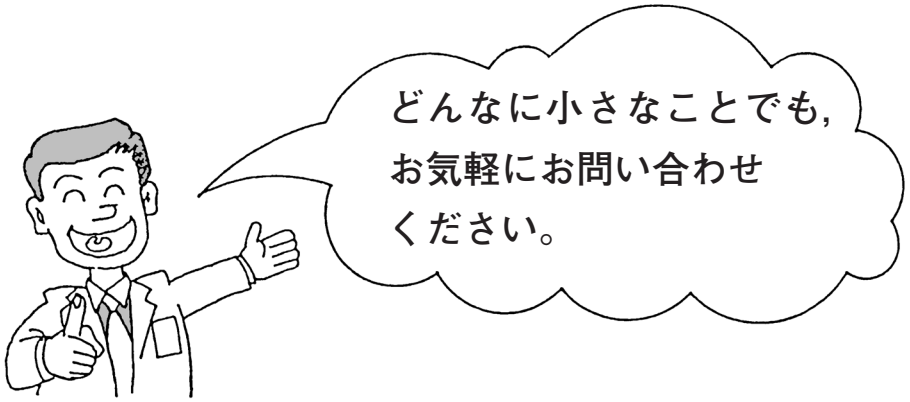
●ご使用状況は…？

（どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

ＴＥＬ　　（　　）

No.010802-26858294000